

早や2か月、不安解消へのスキルアップに全員本気モード！ 収穫の喜びと病害虫や獣害の苦慮も

研修農場新聞

(公財)農林水産振興財団
八王子研修農場
(発行責任者)
農場長 小寺孝治
(無料)

研修農場は、六月から本格的にスタートしたばかりであるが、収穫の喜びと同時に様々な病害虫や獣害の被害も受け、良品づくりの大変さを目の当りにする

日々奮闘する研修生

毎年観測史上記録的な気象結果が報じられるが、今年には梅雨が長く、日照不足により多くの夏野菜類は生育や収量等が低い傾向にある。光合成が行われず、成長や実になる炭水化物が作られないことや、温暖多湿条件で病害等が多発してしまつたためだ。特に農場ではすべて露地栽培のため天候の影響は大きい。

こうした中、小雨が降る中でも収穫調整作業や、雨の合間には雑草の整理、病害虫防除のための農業散布、鳥獣害対策、除草などを行いつつ、基本的な栽培管理技術を習得している。

新規就農のためには、栽培に関する技術・知識は無論のこと、経営や販売に関する知識・経験も重要である。このため7月からは座学を開始するとともに、市内の農家や直売所の視察等

も加え、徐々に経営感覚も学び始める。

いま研修生たちは

この2か月の感想を聞いたのでいくつか紹介する。
①栽培管理から収穫調整に様々なコストがかかることに痛感。資材の種類も多、トマトやスイートコーンには防鳥ネットまで設置したが、作業には多くの労力を要した。農業機械の値段も高いと感じた。それだけのコストをかけても、作物によっては失敗や鳥獣、病害虫被害が多く出るものもある。一人で農業をすることへの不安を感じると同時に、資材と人手を削減する方法を考えていきたい。

②実際の就農に向けて、就農地域や、栽培作物と経営のやり方などをどうするか、入所前のイメージと照

らし合わせる迷いも生じている。コロナで予定がズレてしまっている座学や、農家の方や企業への見学で様々な経営のやり方も学びたい。
③収穫した作物の袋詰めでは、サイズや形を揃へ、ぴったりの袋を選択することで、格段に見栄えがアップする。お客様が手に取ってもいえるよう愛情を込めることが重要と感じた。
④今は収入もなくなり、将来への不安があるので、極力早めに土地や対象作物に一定の目的を付けたい。
⑤卒業までの期間に独立するための知識、技法を身に付けるため、農業の経営論(農業経営者の話)や販路開拓の方法も学びたい。

⑥就農希望地や近辺の実際の農家事情を知りたい。
⑦お客様へ提案できるように、栄養価や美味しい食べ方についても学びたい。
⑧座学も始まったところであるが、やはり実際に育てている作物と連動性のある講義内容にするとより理解が深まる等々。

こうした胸の内を明かす研修生達の不安等は、それだけ本気で就農に向けた準備を進めている証といえる。今後、外部講師等も充実させながらしっかりとサポートしていきたい。

農場スナップ



④農場PRとして都庁食堂のランチでガイダンス提供するため全員で掘取作業



③指導農業者の中西信夫氏(右上)の農園を視察研修



②JGAP上級審査員から現場での農作業安全講習を受講



①農機具全般に使用上の安全講習を実施

6月から7月の主な出来事・作業

(6月)

- ・3~4日クボタ農機ほかメーカーによる農業機械研修
- ・9日に立川庁舎で開講式日
- ・16日帝国バンクによる取材・19日初のweb講義の実施
- ・24日農林水産部長や調整課長等の農場視察
- ・26日フードバンクへの野菜寄付

(7月)

- ・1、3、8、10、15、17、22、24、29日に八王子市フードバンク寄付
- ・2日中西農園、20日菱沼農園の現地視察研修
- ・3日外部講師による農作業安全講習の実施
- ・13、15、17、21、22日には財団職員の職場研修
- ・29日東京農業アカデミー推進協議会



⑥7月中旬以降には財団管理課や事業課、農総研などから4名の方が農場での現場研修にお変だつたと思、初めてのことでお疲れさまでした。感謝！



⑤7月中旬以降タヌキやキツネ等の被害によりスイートコーンは大被害を受ける

【6月から7月の天候】
気温は1946年の統計開始以来東日本では6月として1位の高温。7月に入ると東京は16日連続で降水を観測。また1日から18日までの降水量は平年の約2倍、日照時間は半分以下となった。なお例年最も暑くなる8月は熱中症(日射病、熱射病)に要注意。

【今後の予定】

8月は、キュウリやトマトなど夏野菜の片付け作業と、ニンジンやキャベツ、ダイコンなど秋野菜に向けた畑の準備や播種、定植などが待っている。